

<早春のミツバチ>

桑原紀子

2月の半ば、知り合いの農家から、そろそろミツバチが飛び出した、と電話がありました。

雑木林に置いてある巣箱のはまだで、ベランダに置いてある巣箱の日本ミツバチが飛び始めたのだそうです。

日あたりのいい南斜面の畑には、菜の花も梅も咲いているので、ミツバチたちも活動を開始したのでしょう。今年の冬はきびしい寒さが続きましたが、いよいよ春近しだな、と、心がポッと明るくなりました。

ミツバチの、せわしく動かす透明な羽の音や丸っこいからだ、脚につけた黄色い花粉団子を思い出すと、レンゲ畑や菜の花畑のむせるような匂いまで思い出されて、それはもう春そのものです。

昨年日記を見ると、3月16日に庭のスマレに西洋ミツバチが来た、とあります。

今日は2月23日ですが、上着も脱いで、セーターだけで歩ける暖かさなので、ミツバチを探しに近所を歩いてみました。

ここ2,3日で、やっと畑や道端にお馴染みの春の花が咲き始めました。青いオオイヌフグリ、赤紫のホトケノザ、白いハコベなどです。笹の葉裏には、越冬中のキチョウがひっそり止まっています。開けた畑に菜の花が一行に咲いていました。蜂のようなのが飛び

交っているの、そばまで寄ってみたら、ミツバチより大きいハナアブ達でした。成虫越冬なので、久しぶりのおいしい花の蜜を盛んになめています。冬を無



事過ごしたキタテハという蝶が羽を広げて日向ぼっこしています。体温を上げて活発に飛ぶためです。地面では蟻が、古いカエデの種子を引っ張っています。

しばらく歩きましたが、ミツバチには会えませんでした。まだ少し早いのでしょうか。

そういえば、あの時も日本ミツバチだったな、と10数年前の立春の日のことを思い出しました。多摩丘陵の黒川を歩いていた時、農家のおじさんから裏庭のスタジイの大木の洞にいるミツバチを見せてもらいました。代々棲みついている野生のミツバチとのことですが、まだ冬のような立春の陽射しの中で、洞を出たり入ったり飛んでいるのです。

養蜂に使われる西洋ミツバチより、在来種の野生の日本ミツバチの方が、寒さにも強いのかもかもしれないと、感心したのです。まだ枯れ草が一面の景色の中で、何の花に来るのだろうと不思議に思ったのですが、帰り道、フキトウの花が開いているのに出会いました。

ほろ苦い花の蜜を、蜂たちは春の喜びとともに味わったのでしょうか。